

【資料】

教科種目名《社会（地理的分野）》

発行者の略号	東書	書名	新編	新しい社会	地理
教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連					
かながわ教育 ビジョンとの 関連					
内 容					
構 成 ・ 分 量 ・ 装 丁					
表記・表現					

教育基本法に示されている「幅広い知識と教養を身に付ける」ことに関連して、「地理スキルアップ」の中に、地理学習に必要な技能を身に付ける学習が取り上げられている。

教育基本法に示されている「自ら進んで学習に取り組む意欲を高めること」に関連して、「学習課題」で学習の見通しを取り上げられている。

学校教育法に示されている「基礎的な知識及び技能の習得」に関連して、「地理にアクセス」「地理スキルアップ」「ワーク」が設けられている。

学習指導要領の社会科の目標に示されている「適切な資料・選択・活用、多面的・多角的な考察、表現」に関連して、「世界の地域調査」「身近な地域調査」では、具体的な調査の手順が取り上げられている。

学習指導要領の主な教育内容の改善事項である「言語活動」に関連して、項目ごとに学習内容を説明したり、要約したりすることができるコーナーが設けられている。

*詳細は、資料（地理 - 5 ~ 地理 - 6）に記載。

「思いやる力」の「いのちの大切さ」に関連して、「震災と防災・減災への取り組み」でいのちの大切さや身近な地域で防災に協力する姿勢と普段の備えの大切さについて取り上げられている。

「たくましく生きる」の「国際化」に関連して、グローバル化が進む世界について取り上げられている。

「社会とかかわる力」の「地域貢献活動」に関連して、ケニアにおける日本のNGOの協力で作られる井戸の掘り方の技術指導について取り上げられている。

世界の諸地域の学習では、最初に小学校での学習内容を振り返り、中学校の学習の視点を確認して、世界を6つに分けた州ごとに、自然環境や人々の生活を先に取り扱ったのちに、州のテーマを学習するよう構成されている。

日本の諸地域の学習では、最初に小学校での学習内容の振り返りをしてから、中学校の学習の視点を確認して、各地方の自然環境と人々の生活や産業を共通して取り扱ったのちに、主題ごとに学習するよう構成されている。

領土に関する教育の充実について、「領土をめぐる問題」で、北方領土、竹島、尖閣諸島が本文やコラム、写真や地図で掲載されており、日本固有の領土であることが明記されている。

「被災地への様々な支援」の中で、震災が起きた際に国や自治体が行う具体的な支援について取り上げられている。

神奈川県に関連することとして、人口が集中する地域で見られる問題を解決するための取組として、横浜市の事例が掲載されている。

*詳細のデータは、資料（地理 - 7 ~ 地理 - 22）に記載。

巻末に「世界の主な家畜」「世界の主な農産物」が掲載されている。

判型はA B判で、基本的に見開き2ページが1テーマとして構成されており、この教科書は、「全ての生徒の色覚特性に適應するようにデザインしています。」「再生紙・植物油インキを使用しています。」と表記されている。

*詳細のデータは、資料（地理 - 23）に記載。

学習を進めるためのキャラクターが使用されている。

資料には見開きごとに通し番号が付けられている。

*詳細のデータは、資料（地理 - 23）に記載。

【資料】

教科種目名《社会（地理的分野）》

発行者の略号	教出	書名	中学社会 地理 地域にまなぶ
教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連			<p>教育基本法に示されている「幅広い知識と教養を身に付ける」ことに関連して、「地域から世界を考えよう」の中に、課題解決にむけて思考、判断をする場面が取り上げられている。</p> <p>教育基本法に示されている「自ら進んで学習に取り組む意欲を高めること」に関連して、「学習課題」で学習の見通しを取り上げられている。</p> <p>学校教育法に示されている「基礎的な知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力」に関連して、「地理にアプローチ」「読み解こう」「ふりかえる」が設けられている。</p> <p>学習指導要領の社会科の目標に示されている「思考力、判断力、表現力」に関連して、「世界のさまざまな地域の調査」「身近な地域の調査」では、「地域調査の手引き」で、結果のまとめ方や発表の仕方について取り上げられている。</p> <p>学習指導要領の主な教育内容の改善事項である「言語活動」に関連して、学習内容を確認、整理し、説明や話し合い活動に取り組めるコーナーが設けられている。</p> <p>* 詳細は、資料（地理 - 5 ~ 地理 - 6）に記載。</p>
かながわ教育 ビジョンとの 関連			<p>「思いやる力」の「いのちの大切さ」に関連して、「災害から身を守るために」でいのちの大切さや「自助」「共生」の大切さについて取り上げられている。</p> <p>「たくましく生きる」の「国際化」に関連して、案内標識に見る国際化について取り上げられている。</p> <p>「社会とかがわる力」の「ボランティア活動」に関連して、東日本大震災の時の、パキスタン人のカレーの炊き出しについて取り上げられている。</p>
内 容			<p>世界の諸地域の学習では、世界の食事のようすを導入にして、世界を6つに分けた州ごとに、自然環境を先に取り扱ったのちに、州のテーマを学習するよう構成されている。</p> <p>日本の諸地域の学習では、日本を3つの大きな区分にしたイメージをとらえ、次に、各地方の自然環境を共通して取り扱ったのちに、主題ごとに学習するよう構成されている。</p> <p>領土に関する教育の充実について、「日本の領土をめぐって」で、北方領土、竹島、尖閣諸島が本文や写真、地図や拡大図で掲載されており、日本固有の領土であることが明記されている。</p> <p>「災害への支援と復興」の中で釜石市の津波防災教育の取組を例に、自助や共助の必要性について取り上げられている。</p> <p>神奈川県に関連することとして、横須賀市の減災の取組が紹介され、横須賀市が作成した津波ハザードマップが掲載されている。</p> <p>* 詳細のデータは、資料（地理 - 7 ~ 地理 - 22）に記載。</p>
構 成 ・ 分 量 ・ 装 丁			<p>巻末に「世界の主な家畜」「主な鉱産物」「世界の主な農産物」が掲載されている。</p> <p>判型はA B判で、基本的に見開き2ページが1テーマとして構成されており、この教科書は、「再生紙と植物油インキを使用」「印刷においては、バイオマスで発電されたグリーン電力を使用」「カラーユニバーサルデザインに配慮」と表記されている。</p> <p>* 詳細のデータは、資料（地理 - 23）に記載。</p>
表記・表現			<p>学習を進めるためのキャラクターが使用されている。</p> <p>資料には見開きごとに通し番号が付けられている。</p> <p>* 詳細のデータは、資料（地理 - 23）に記載。</p>

【資料】

教科種目名《社会（地理的分野）》

発行者の略号	帝国	書名	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土
教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連			<p>教育基本法に示されている「幅広い知識と教養を身に付ける」ことに関連して、「技能をみがく」を通して、地球儀の使い方や表の読み取りなど、実技に取り組みながら学ぶ機会が取り上げられている。</p> <p>教育基本法に示されている「自ら進んで学習に取り組む意欲を高めること」に関連して、「学習課題」で、おさえるべき課題や学習の視点が取り上げられている。</p> <p>学校教育法に示されている「基礎的な知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力」に関連して、「技能をみがく」「確認しよう」「説明しよう」が設けられている。</p> <p>学習指導要領の社会科の目標に示されている「思考力、判断力、表現力」に関連して、「世界のさまざまな地域の調査」「身近な地域の調査」や「トライアル地理」で、資料の活用方法や調査結果のまとめ方などが取り上げられている。</p> <p>学習指導要領の主な教育内容の改善事項である「言語活動」に関連して、自ら考察できるよう、学習内容を確認したり、知識を整理したりするコーナーが設けられている。</p> <p>* 詳細は、資料（地理 - 5 ~ 地理 - 6）に記載。</p>
かながわ教育 ビジョンとの 関連			<p>「思いやる力」の「いのちの大切さ」に関連して、「ハザードマップを使ってみよう」で身近な地域で災害が発生する可能性を考えたり、避難の方法を考えたりすることの大切さについて取り上げられている。</p> <p>「たくましく生きる」の「情報化」に関連して、通信技術を医療に生かすことについて取り上げられている。</p> <p>「社会とかかわる力」の「地域貢献活動」に関連して、鳥取県の砂丘地での緑化技術の取組について取り上げられている。</p>
内 容			<p>世界の諸地域の学習では、世界を6つの州に分け、各州で注目するテーマを最初のページにまとめ、次に州ごとに、自然環境や人々の生活を先に取り扱ったのちに、注目するテーマを学習するよう構成されている。</p> <p>日本の諸地域の学習では、日本の諸地域を学ぶ視点を大まかに紹介し、次に、各地方の自然環境と人々の生活や産業を共通して取り扱ったのちに、主題ごとに学習するよう構成されている。</p> <p>領土に関する教育の充実について、「日本の領域と領土問題」で、北方領土、竹島、尖閣諸島が本文や写真、地図で掲載されており、日本固有の領土であることが明記されている。</p> <p>「ハザードマップを使ってみよう」や「災害への対応」などで、震災の経験を基にした、災害への対策などが取り上げられている。</p> <p>神奈川県に関連することとして、ハザードマップの活用法の学習において、鎌倉市の津波ハザードマップや津波避難訓練の写真などが掲載されている。</p> <p>* 詳細のデータは、資料（地理 - 7 ~ 地理 - 22）に記載。</p>
構 成 ・ 分 量 ・ 装 丁			<p>巻末に「世界の畜産物」「世界の農産物」が掲載されている。</p> <p>判型はA B判で、基本的に見開き2ページが1テーマとして構成されており、「この教科書は、環境にやさしい再生紙・ライスインクを使用」「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮」と表記されている。</p> <p>* 詳細のデータは、資料（地理 - 23）に記載。</p>
表記・表現			<p>学習を進めるためのキャラクターが使用されている。</p> <p>資料には見開きごとに通し番号が付けられている。</p> <p>* 詳細のデータは、資料（地理 - 23）に記載。</p>

【資料】

教科種目名《社会（地理的分野）》

発行者の略号	日文	書名	中学社会 地理的分野
教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連			<p>教育基本法に示されている「幅広い知識と教養を身に付ける」ことに関連して、「スキルUP」に、地図や写真、資料の活用法について取り上げられている。</p> <p>教育基本法に示されている「自ら進んで学習に取り組む意欲を高めること」に関連して、「学習課題」で学習の見通しを取り上げられている。</p> <p>学校教育法に示されている「基礎的な知識及び技能の習得」に関連して、「スキルUP」が、「思考力、判断力、表現力」に関連して、「言語活動コーナー」「学習の確認と活用」が設けられている。</p> <p>学習指導要領の社会科の目標に示されている「地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度の育成」に関連して、「世界のさまざまな地域の調査」「身近な地域の調査」には調査の方法や発表の仕方について取り上げられている。</p> <p>学習指導要領の主な教育内容の改善事項である「言語活動」に関連して、自分の言葉で表現できるよう、学習内容をもとに思考・判断・表現するコーナーが設けられている。</p> <p>*詳細は、資料（地理 - 5～地理 - 6）に記載。</p>
かながわ教育 ビジョンとの 関連			<p>「思いやる力」の「いのちの大切さ」に関連して、自分達の地域での災害発生時の避難方法について取り上げられている。</p> <p>「たくましく生きる」の「情報化」に関連して、知識や情報を中心に、社会・経済が発展する情報社会について取り上げられている。</p> <p>「社会とかわる力」の「ボランティア活動」に関連して、阪神淡路大震災をきっかけに定着した一般市民ボランティアによる支援活動について取り上げられている。</p>
内 容			<p>世界の諸地域の学習では、世界を6つの州に分け、写真を使って各州のイメージをとらえ、次に州ごとに、自然環境や人々の生活を先に取り扱ったのちに、州のテーマを学習するよう構成されている。</p> <p>日本の諸地域の学習では、日本の諸地域を学ぶ視点を大まかに紹介し、次に、各地方の自然環境と人々の生活や産業を共通して取扱ったのちに、主題ごとに学習するよう構成されている。</p> <p>領土に関する教育の充実について、「日本の領域をめぐる問題をつかむ」で、北方領土、竹島、尖閣諸島が本文や写真、地図で掲載されており、日本固有の領土であることが明記されている。</p> <p>「せまりくる巨大地震」の中で想定される南海トラフ巨大地震への備えを例に、適切に避難することの大切さについて取り上げられている。</p> <p>神奈川県に関連することとして、再生可能エネルギーの学習において、水力発電の事例として清川村のダムの写真が掲載されている。</p> <p>*詳細のデータは、資料（地理 - 7～地理 - 22）に記載。</p>
構 成 ・ 分 量 ・ 装 丁			<p>巻末に「日本の主なユネスコ無形文化遺産」「日本の世界遺産」が掲載されている。判型はA B判で、基本的に見開き2ページが1テーマとして構成されており、「この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。また、植物油インキと再生紙を使用しています。」と表記されている。</p> <p>*詳細のデータは、資料（地理 - 23）に記載。</p>
表記・表現			<p>学習を進めるためのキャラクターが使用されている。</p> <p>資料には見開きごとに通し番号が付けられている。</p> <p>*詳細のデータは、資料（地理 - 23）に記載。</p>

【資料】

教科種目名《社会（地理的分野）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連
教育基本法第2条及び第6条第2項の内容

第2条 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

東書	「地理スキルアップ」の中に、地理学習に必要な技能を身に付ける学習が取り上げられている。
教出	「地域から世界を考えよう」の中に、課題解決にむけて思考、判断をする場面が取り上げられている。
帝国	「技能をみがく」を通して、地球儀の使い方や表の読み取りなど、実技に取り組みながら学ぶ機会が取り上げられている。
日文	「スキルUP」に、地図や写真、資料の活用法について取り上げられている。

二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

東書	「調査の達人」などで地域調査の方法が取り上げられている。
教出	「身近な地域調査」などで自ら地域調査をする方法が取り上げられている。
帝国	「身近な地域の調査」などで自ら地域調査をする方法が取り上げられている。
日文	「スキルUP」などで自ら地域調査をする方法が取り上げられている。

三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

東書	社会に参画する意識を育めるように、各地方を概観するページなどには、自然との共生の工夫を取り上げる「地理にアクセス」というコーナーが設けられている。
教出	各地の地域おこしの事例を通して地域社会の課題と地域を活性化するための工夫や努力について考えさせるように、「現代日本の課題を考えよう」というコーナーが設けられている。
帝国	よりよい社会の形成に参画する意識を育めるように、様々な地域社会の向上を目指す取組の事例を掲載する「地域を探ろう」というコーナーが設けられている。
日文	よりよい社会づくりの意識を育めるように、地域社会の様々な課題とその解決に向けた取組を紹介する「地理+」「地域からのメッセージ」というコーナーが設けられている。

四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

東書	環境保全についての意識を育めるように、様々な環境問題や環境保全の取組を取り上げる「深めよう」というコーナーが設けられている。
教出	自分たちの暮らしとの関わりについて関心と考察を深めるように、「世界から見た日本の姿」という単元では、自然災害や環境保全に関する事例が取り上げられている。
帝国	自然と人間社会との共生を考えさせるように、環境問題や環境保全に関する事例を取り上げる「羅針盤マーク」や「地域を探ろう」というコーナーなどが設けられている。
日文	世界や日本の様々な環境問題や環境保全、持続可能な社会について系統だてて学習させるように、「地理+」：持続可能な社会」というコーナーが設けられている。

五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

東書	アジアや北アメリカ、南アメリカの文化交流の様子を通して、他の文化を尊重する重要性を認識する主題が取り上げられている。
教出	世界の民族や言語・宗教と社会の関わりを通して、他の文化を尊重する重要性を認識する主題が取り上げられている。
帝国	オセアニアの移民と多文化社会の様子を通して、他の文化を尊重する重要性を認識する主題が取り上げられている。
日文	ブラジルなどからの日系人の来日の様子を通して、他の文化を尊重する重要性を認識する主題が取り上げられている。

第6条 2 前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。

東書	「学習課題」で学習の見通しが取り上げられている。
教出	「学習課題」で学習の見通しが取り上げられている。
帝国	「学習課題」で、おさえるべき課題や学習の視点が取り上げられている。
日文	「学習課題」で学習の見通しが取り上げられている。

学校教育法第46条の内容

第46条 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

東書	「基礎的な知識及び技能の習得」に関連して、「地理にアクセス」「地理スキルアップ」「ワーク」が設けられている。
教出	「基礎的な知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力」に関連して、「地理にアプローチ」「読み解こう」「ふりかえる」が設けられている。
帝国	「基礎的な知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力」に関連して、「技能をみがく」「確認しよう」「説明しよう」が設けられている。
日文	「基礎的な知識及び技能の習得」に関連して、「スキルUP」が、「思考力、判断力、表現力」に関連して、「言語活動コーナー」「学習の確認と活用」が設けられている。

学習指導要領の教科の目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

東書	「世界の地域調査」「身近な地域調査」では、具体的な調査の手順が取り上げられている。
教出	「世界のさまざまな地域の調査」「身近な地域の調査」では、「地域調査の手引き」で、結果のまとめ方や発表の仕方について取り上げられている。
帝国	「世界のさまざまな地域の調査」「身近な地域の調査」や「トライアル地理」で、資料の活用方法や調査結果のまとめ方などが取り上げられている。
日文	「世界のさまざまな地域の調査」「身近な地域の調査」には調査の方法や発表の仕方について取り上げられている。

学習指導要領の教育内容の主な改善事項に関連する内容

言語活動の充実

東書	項目ごとに学習内容を説明したり要約したりすることができるコーナーが設けられている。
教出	学習内容を確認、整理し、説明や話し合い活動に取り組めるコーナーが設けられている。
帝国	自ら考察できるよう、学習内容を確認したり、知識を整理するコーナーが設けられている。
日文	自分の言葉で表現できるよう、学習内容をもとに思考・判断・表現するコーナーが設けられている。

伝統や文化に関する教育の充実

東書	東北地方の祭りや食文化、伝統産業などが取り上げられ、伝統文化を継承する取組が取り上げられている。
教出	京都の街並みと景観保全が取り上げられ、伝統文化を継承する取組と課題が取り上げられている。
帝国	京都市や高岡市の伝統産業が取り上げられ、伝統文化を継承し発展させた取組が取り上げられている。
日文	日本のユネスコ無形文化遺産や世界遺産の写真が掲載され、伝統文化を継承することの重要性が取り上げられている。

道徳教育の充実

東書	「イスラム教徒の人々の暮らし」や「多民族社会を形成するアメリカ」の中で異文化理解を深めるための内容が取り上げられている。
教出	「多民族の共存と貧困」や「日本からの移民の貢献」の中で世界が抱える課題点とそれに対する日本の取組が取り上げられている。
帝国	「地球温暖化の影響と対策」や「公害の経験を生かした環境保全への取り組み」の中で国内外の自然環境について考える機会が取り上げられている。
日文	「原子力発電所の事故と再生可能エネルギー」で世界が抱えるエネルギー問題について考える機会が取り上げられている。

体験活動の充実

東書	体験的な活動について、学習過程における考察やまとめなどができるコーナーが設けられている。
教出	体験的な活動について、調査活動に必要な視点と方法がわかるコーナーが設けられている。
帝国	地域の調査について、調査テーマの決め方、調べる視点の例、調査の手順が分かりやすく示されている。
日文	地域の調査について、調査テーマ設定から調査・まとめ・発表までが順序立てて示されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

【思いやる力】他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。

(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、男女平等教育、道徳教育など)

東書	「震災と防災・減災への取り組み」でいのちの大切さや身近な地域で防災に協力する姿勢と普段の備えの大切さが取り上げられている。
教出	「災害から身を守るために」でいのちの大切さや「自助」「共生」の大切さについて取り上げられている。
帝国	「ハザードマップを使ってみよう」で身近な地域で災害が発生する可能性を考えたり、避難の方法を考えたりすることの大切さを取り上げられている。
日文	「迫りくる巨大地震」で自分たちの地域で災害発生時の被害と避難の方法について考えることが取り上げられている。

【たくましく生きる力】自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。

(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)

東書	「グローバル化が進む世界」で世界の情報通信網の発達について取り上げられてる。
教出	「案内表示に見る国際化」で東京の道路標識に見る国際化について取り上げられている。
帝国	「通信網の発達と人々の生活の変化」で情報通信機器の普及による生活の変化について取り上げられている。
日文	「情報社会をむかえて」で知識や情報を中心として社会・経済が発展していく情報社会について取り上げられている。

【社会とかかわる力】社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる。

(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)

東書	ケニアで日本のNGOの協力で作られる井戸の掘り方の技術指導について取り上げられている。
教出	東日本大震災の時の、パキスタン人のボランティアの活動について取り上げられている。
帝国	鳥取県の砂丘地での緑化技術の取組について取り上げられている。
日文	阪神淡路大震災をきっかけに定着した一般市民ボランティアによる支援活動について取り上げられている。

3 内容

- 取り上げている国（数）
- 自然環境を取り扱っているページ（数）
- 人口を取り扱っているページ（数）
- 資源・エネルギーと産業を取り扱っているページ（数）
- 地域間の結び付きを取り扱っているページ（数）
- 世界の諸地域ごとの主題
- 日本の諸地域ごとに中核とした項目
- 身近な地域の例として取り上げられている地域
- 神奈川県に関連する記載事項
- 北方領土について取り上げている記載事項
- 竹島について取り上げている記載事項
- 尖閣諸島について取り上げている記載事項
- 慰安婦または従軍慰安婦について取り上げている記載事項
- 強制連行について取り上げている記載事項
- 拉致について取り上げている記載事項
- エネルギー問題について取り上げている記載事項
- 震災について取り上げている記載事項
- ～ については、本文に記載されている文を引用
(図・表・年表等で取り扱われているものも含む)

	調 査 研 究 事 項	東 書	教 出	帝 国	日 文
取 り 上 げ て い る 国	アジア（数）	14	20	21	18
	ヨーロッパ（数）	10	12	15	15
	アフリカ（数）	10	7	14	10
	南北アメリカ（数）	12	12	11	10
	オセアニア（数）	7	5	5	3
	合 計	53	56	66	56

	調 査 研 究 事 項	東 書	教 出	帝 国	日 文
	自然環境（ページ数）	12	10	14	16
	人口（ページ数）	4	4	4	4
	資源・エネルギーと産業 （ページ数）	12	4	10	10
	地域間の結び付き（ページ数）	4	2	3	4

アジア	急速に進む成長と変化	アジアの多様性と経済発展	巨大な人口と急速な経済発展	経済成長による社会の変化
ヨーロッパ	国どうしの統合による変化	統合を強めるヨーロッパの国々	国境をこえた結び付きによる変化	E U 統合による社会の変化
アフリカ	特定の生産品にたよる生活からの変化	アフリカの人々の暮らしとその変化	人々の生活の変化と自立への課題	主な生産品にたよる経済からの変化
北アメリカ	盛んな農業や工業の特色	世界に大きな影響力をもつ北アメリカ	世界に影響を与える産業と文化	世界じゅうに影響をあたえる産業
南アメリカ	開発の進展と環境問題	南アメリカの開発と環境	進む開発と環境問題	開発・環境問題と人々の生活
オセアニア	強まるアジアとの結び付き	他地域と結びつくオセアニア	多文化社会の形成とアジアとの結びつき	他地域との結びつきの変化
九州地方	環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らし	環境問題と環境保全を中心に考えよう	自然環境	環境問題や環境保全
中国・四国地方	都市と農村の変化と人々の暮らし	人口や都市・村落を中心に考えよう	他地域との結びつき	人口や都市・村落
近畿地方	歴史の中で形づくられてきた人々の暮らし	歴史的背景を中心に考えよう	環境保全	歴史的背景
中部地方	活発な産業を支える人々の暮らし	産業を中心に考えよう	産業	産業
関東地方	さまざまな地域と結びつく人々の暮らし	他地域との結びつきを中心に考えよう	人口や都市	他地域との結びつき
東北地方	伝統的な生活・文化や、災害からの教訓を受けつぐ人々の暮らし	生活・文化を中心に考えよう	生活・文化	生活・文化
北海道地方	雄大な自然とともに生きる人々の暮らし	自然環境を中心に考えよう	歴史的背景	自然環境
身近な地域の例として取り上げられている地域	静岡県静岡市	愛知県名古屋市	東京都練馬区	愛知県小牧市
神奈川県に関連する記載(数)	32	46	37	27

神奈川県に関連する記載事項

東 書	P158	日本の人口密度の分布図 100万人以上の都市（横浜市 川崎市）
	P158	三大都市圏への人口集中のグラフ（東京圏：神奈川県）
	P158	「東京、神奈川、大阪、愛知などの都府県への集中が著しく」
	P163	火力発電所とガスタンカー（神奈川県横浜市）の写真
	P166	日本の主な工業地帯・地域の分布図 京浜工業地帯・地域の工業生産額のグラフ（京浜：東京・神奈川・埼玉）
	P169	第三次産業就業者数の県別割合の分布図（神奈川県76.3%）
	P169	東京都区部周辺のゲーム会社の分布図
	P175	中央新幹線の計画路線図
	P186	環境モデル都市に選ばれた市区町村の分布図（横浜市）
	P196	全国の主要官庁の分布図 横浜市（国土交通省地方運輸局）
	P220	主な港の輸出額の内訳のグラフ（横浜港の輸出額）
	P227	横浜中華街の写真
	P228	関東地方の自然環境の地図（神奈川県 横浜市 多摩川 三浦半島 相模川 相模湾 相模灘 箱根山）
	P229	「東京、横浜などの大都市では、都市化の進展にともなう環境の変化から、都市部の気温が周辺部よりも高くなるヒートアイランド現象が見られます。」
	P230	関東地方の人口の分布図（横浜市 川崎市 相模原市 横須賀市 藤沢市 鎌倉市 平塚市 厚木市 小田原市）
	P230	「特に東京、神奈川、埼玉、千葉の4都県は人口が多く、東京23区のほかに、政令指定都市である横浜市、川崎市、相模原市、さいたま市、千葉市があります。」
	P231	関東地方の産業の分布図（川崎市：製油 港 横浜市：自動車 港 三浦半島：大根 西湘：みかん 相模原市 厚木市 小田原市）
	P231	東京都中央卸売市場に入荷する野菜の県別入荷量のグラフ（神奈川県5.7万トン）
	P231	「東京、神奈川、埼玉、千葉の4都県は、第三次産業人口の割合が7割をこえています（2012年）」
	P233	東京23区への通勤・通学者の分布図（神奈川県90.5万人）
	P233	「神奈川県には横浜みなとみらい21が～（略）～建設されました。」
	P234	都県別の工業生産額と内訳のグラフ（神奈川県）
	P234	主な野菜の生産量の県別割合のグラフ（神奈川県：キャベツ5.6%）
	P234	「工業原料の輸入に適した東京湾の臨海部には、石油化学コンビナートや製鉄所、火力発電所、製粉工場などの大工場が立ち並び、京浜工業地帯や京葉工業地域を形成しています。そのため、横浜港や川崎港、千葉港などの工場が周辺にある貿易港では、石油や石炭、鉄鉱石、小麦、とうもろこしなどの輸入が多くなっています。」
	P235	「房総半島や三浦半島では、冬でも暖かい気候を利用して、大都市向けの野菜や生花が一年を通して生産されています。」
	P235	「東京ディズニーランドやお台場、横浜中華街などには、週末になると各地からたくさんの人々が訪れます。」
	P236	日本の港湾別貿易額（上位10港）のグラフ（横浜港 川崎港）
	P236	都道府県別の在留外国人数の割合のグラフ（神奈川県8.0%）
P236	「成田国際空港（成田空港）や東京港、横浜港などは、日本有数の貿易港であり、さまざまな商品の積み降ろしが行われています。」	
P237	関東地方の地名を確認しようの地図（神奈川県 三浦半島）	
P238	人口集中の課題と対策 - 横浜市を事例に考える	
P286	日本の都道府県のあらし 神奈川県の統計資料	

教 出	P9	日本の貿易港の輸出額のグラフ（横浜港 6.8 兆円）
	P9	日本の貿易港の輸出額の割合のグラフ（横浜港 10.6%）
	P122	火山活動によってできた地形 箱根山の写真
	P132	日本の都道府県と七地方区分の地図 神奈川県（横浜市）
	P133	都道府県庁所在地と成り立ちの地図（横浜市）
	P133	「都道府県庁所在地にはどのような成り立ちのものがみられるのでしょうか。神奈川県横浜市や長崎県長崎市のように港を中心とした港町や、～（略）～みられます。」
	P134	昔の国の区分の地図（武蔵 相模）
	P147	日本周辺の主な地震と活断層の分布図 関東地震（関東大震災）（1923 年）
	P148	横須賀市が作成した津波ハザードマップ 「三浦半島にある横須賀市では、7000 分の 1 の縮尺の市の地形図上に、～（略）～。」
	P152	日本の人口密度の分布図（横浜市 川崎市 相模原市）
	P155	日本の主な発電所の分布図（神奈川県：火力発電所）
	P157	日本の主な工業地帯・工業地域と出荷額の割合（京浜工業地帯...東京都、神奈川県、埼玉県）
	P159	「日本の貿易の窓口になっているのは、成田国際空港や名古屋港、横浜港などです。」
	P171	エコタウン事業が進められる地域の分布図（神奈川県川崎市）
	P171	「神奈川県に本社をおく自動車会社の工場が福岡県苅田町に進出し、～（略）～。」
	P172	日本各地の公害病の認定患者数の分布図（横浜市：大気汚染 川崎市：大気汚染）
	P183	本州・四国間的高速バスの輸送客数の変化のグラフ（東京・横浜・名古屋行き）
	P192	日本の工業地帯・工業地域の生産割合の変化のグラフ（京浜...東京都・神奈川県・埼玉県）
	P193	日本の主な製鉄工場の分布の移り変わりの地図（川崎市）
	P195	卸売・小売業企業の本社所在地の分布図（神奈川県 3982 社）
	P199	「神奈川県横浜市の中華街、長崎県長崎市の新地中華街と並んで、チャイナタウンの一つとして観光客を集めています。横浜中華街は、500m四方に総店舗数 600 店、そのうち中華料理店は 240 店あり、人口は 6000 人という世界最大規模の中華街となっています。～（略）～中華街の規模として、南京町は横浜中華街の半分ほどしかありません。しかし、横浜中華街が商業地とともに生活の場にもなっているのに対し、～（略）～。」
	P199	日本各地の中華街の写真（横浜市）
	P202	主な工業地帯・工業地域の生産額の割合のグラフ（京浜工業地帯（東京都・神奈川県・埼玉県））
	P202	輸送用機械の生産額の都道府県別割合のグラフ（神奈川県 6.8%）
	P209	日本の主な地場産業の分布図（箱根の寄木細工）
	P210	「在留外国人の都道府県別の人口では、多い順に東京都（41 万人）、大阪府（20 万人）、愛知県（20 万人）、神奈川県（17 万人）、埼玉県（12 万人）となっています。」
	P212	「東京の発展とともに、東京都の西部や神奈川県、埼玉県、千葉県でも宅地開発が進められてきました。」
	P212	「～（略）～関東山地に源流をもつ荒川、多摩川、相模川などの河川によってつくられた日本で最も広い平野です。」
	P213	関東地方の地勢と各都県の地図（神奈川県 横浜市 川崎市 相模原市 多摩川 相模川 相模湾 三浦半島 箱根山）
	P215	東京周辺の昼間と夜間の人口の分布図（神奈川県 川崎市 横浜市）
P216	東京 23 区への通勤・通学者人口の分布図（神奈川県 川崎市 横浜市 相模原市 港北ニュータウン）	
P216	「多摩、千葉、港北などのニュータウンでは大規模な開発が行われ、多くの住宅地が建設されました。」	

P217	東京周辺の地価分布図（神奈川県 川崎市 横浜市 横須賀市 藤沢市 相模原市）
P217	東京の市街地の拡大の分布図（神奈川県 川崎市 横浜市 横須賀市 相模原市）
P217	「「みなとみらい」地区（横浜市）などの開発が行われ、多くのオフィスビルが新しく建設されています。」
P218	関東地方の主な工業都市の分布図（横浜市 川崎市 横須賀市 相模原市 平塚市）
P218	「東京・横浜間の東京湾岸では、明治時代から埋め立て地に工場が建設され、京浜工業地帯として発展しました。～（略）～。」
P219	関東地方の工業にみる地域別生産額の割合のグラフ（京浜工業地帯：東京・埼玉・神奈川）
P219	臨海部に広がる京浜工業地域（神奈川県横浜市・川崎市）の写真
P220	都道府県別の外国人登録者数の分布図（神奈川県 16.2万人）
P220	横浜港の本牧ふ頭の写真
P220	「東京に近い横浜港は、長い間日本の「海の玄関」として利用されてきました。旅客輸送の中心が航空機に移った現在でも、自動車の輸出をはじめ貨物輸送が盛んで、日本有数の貿易港として発展しています。」
P221	日本の主な港の貿易額の分布図（横浜港 川崎港）
P221	横浜港と成田国際空港の貿易品目のグラフ
P224	関東地方のまとめ 関東地方の政令指定都市
P229	ユネスコに登録された日本の無形文化遺産の分布図（三浦市のチャッキラコ）
P274	日本の都道府県のあらまし 神奈川県の統計資料

帝 国	P130	国をもとにした昔の地域区分の地図（武蔵 相模）
	P142	梅雨の時期にあじさいを觀賞する人々（神奈川県鎌倉市）の写真
	P144	おもな火山と地震の震源地（関東 M7.9 1923年）
	P148	「ここでは、神奈川県鎌倉市の「津波ハザードマップ」を例に、ハザードマップの活用法を学んでみましょう。」
	P148	鎌倉市の津波ハザードマップ
	P148	空から見た鎌倉の市街地(写真)
	P149	津波避難訓練に参加する地域の住民(写真)(鎌倉市)
	P149	人々の安全な非難をうながすためのさまざまな取り組み（鎌倉市）
	P153	日本の人口密度とおもな都市の分布図（横浜市 川崎市 相模原市）
	P157	充電中の電気自動車（神奈川県横浜市）の写真
	P160	日本のおもな工業地域の分布図（京浜工業地帯（東京・神奈川・埼玉・千葉））
	P161	臨海部に広がる大規模な工場群（神奈川県川崎市）の写真
	P214	輸送機械工業の出荷額のグラフ（神奈川県6.6%）
	P216	キャベツの生産のグラフ（神奈川県5.3%）
	P222	中部地方の交通網の地図（神奈川 横浜）
	P224	観光客でにぎわう横浜中華街の写真
	P226	関東地方の自然の地図（神奈川県 横浜市 多摩川 相模川 三浦半島 相模湾 箱根山 丹沢山地）
	P227	朝5時の平均気温の分布図（川崎市 横浜市 相模原市）
	P227	「房総半島や三浦半島は、冬に観光農園で花つみが楽しめることでも知られています。」
	P229	日本のおもな港の貿易額のグラフ（横浜港 川崎港）
	P230	横浜の「みなとみらい21」地区の写真
	P230	港北ニュータウンの写真
	P230	東京大都市圏内の地価の比較のグラフ（横浜市港北区 川崎市高津区 相模原市南区 平塚市 秦野市）
	P230	「神奈川県や埼玉県、千葉県、茨城県など東京の周辺の県にかけて広がる東京大都市圏は、日本の約4分の1の人口が集中する日本最大の都市圏となっています。」
	P230	「東京大都市圏は、横浜市・川崎市・さいたま市・千葉市・相模原市の五つの政令指定都市があります。なかでも横浜市は370万人をこえる人々が暮らす、東京について人口が全国第2位の大都市です。江戸時代の終わりに開かれた港を中心に港町が形成されて以来、国際色豊かな都市として発展してきました。現在も洋館やれんがづくりの建物などの歴史的な景観が残されている一方で、再開発によって商業施設や国際会議場などが集まる「みなとみらい21」地区が生まれ、多くの人々が訪れています。また横浜市は、市内だけでなく東京などへ通勤・通学する人の居住地にもなっています。横浜市の都市化はもともと臨海部から進行しましたが、東京の人口が増えるにつれ、内陸の丘陵部でも住宅地の開発がさかんになりました。1970年代に開発が始まった港北ニュータウンのように、横浜市の中心部や東京への交通の利便性が高く、生活環境が整った住宅地区では、現在も人口が増え続けています。」
	P231	東京大都市圏の拡大とおもなニュータウンの分布図（港北ニュータウン みなとみらい21 川崎市 横浜市 横須賀市 鎌倉市 平塚市 小田原市 秦野市 厚木市 相模原市 大和市）
P231	東京23区へ通勤・通学する人の数の分布図（神奈川県89.6万人）	
P233	通信販売を行う企業の物流センター（神奈川県小田原市）の写真	
P233	関東地方の高速道路網とショッピングセンターなどの分布図（横浜市 相模原市）	
P233	「神奈川県相模原市のような高速道路の近くには、交通網の発達により、国内だけでなく世界各地から集まる物資を扱う物流センターがたくさん建てられ、商業活動を支えています。」	
P234	「京浜工業地帯は、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県にまたがる日本有数の工業地帯です。」	

	<p>P234 「工場を建てるための用地が不足して、神奈川県<small>の</small>藤沢市などの相模湾沿いの都市にも工場が立地していきました。さらに広い土地を求めて、工場は内陸部の八王子市や相模原市などにも進出しました。」</p> <p>P235 関東地方のおもな工業と出荷額の分布図（川崎市：化学製品・輸送機械 横浜市：業務用機械・輸送機械 横須賀市：輸送機械 藤沢市：輸送機械 平塚市：輸送機械 小田原市：化学製品 厚木市：輸送機械 相模原市：業務用機械）</p> <p>P236 東京大都市圏のおもな都市で消費される野菜の生産地のグラフ（神奈川県：キャベツ 16.2% だいこん 23.5%）</p> <p>P237 おもな野菜などの栽培地と東京へ出荷される割合の分布図（神奈川 14.6% キャベツ だいこん）</p> <p>P239 「横浜 全国第2位の人口をもつ 中華街やみなとみらい21地区の商業施設、国際会議場など国際色豊かな都市 内陸の丘陵地では住宅地を開発」</p> <p>P239 「京浜工業地帯 東京・神奈川・埼玉・千葉にわたる日本有数の工業地帯」</p>
日 文	<p>P123 「県名と県庁所在地は同じであることが多いですが、神奈川県と横浜市、兵庫県と神戸市のように異なることもあります。」</p> <p>P124 関東甲信越の範囲の地図（神奈川県）</p> <p>P140 日本周辺の地震災害と主な火山の分布図（関東大震災）</p> <p>P152 日本の人口密度と主な都市の分布図（横浜市 川崎市 相模原市）</p> <p>P155 水力発電（神奈川県清川村）の写真</p> <p>P157 計画停電で店内が暗いコンビニエンスストア（神奈川県横須賀市）の写真</p> <p>P160 日本の工業地域（京浜...東京都、神奈川県）</p> <p>P169 横浜市の写真</p> <p>P218 関東地方の県と地形の地図（神奈川県 横浜市 多摩川 相模川 三浦半島 相模湾 箱根山 芦ノ湖）</p> <p>P220 関東地方の人口密度の分布図（神奈川県 川崎市 横浜市 横須賀市 藤沢市 相模原市）</p> <p>P220 関東地方の土地利用と農業・漁業の分布図（キャベツ だいこん 梅 みかん）</p> <p>P220 「東京23区を中心に、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市といった政令指定都市や、郊外の衛星都市などがつらなっていて、日本で最も人口が集中している東京大都市圏が広がっています。」</p> <p>P221 関東地方の工業の分布図（川崎市：石油製品 横浜市：石油製品 横須賀市：輸送機械 藤沢市：輸送機械 平塚市：輸送機械 小田原市：化学 厚木市：輸送機械 相模原市：一般機械）</p> <p>P221 情報通信業の売上高の多い県のグラフ（神奈川県 9.7%）</p> <p>P222 国内銀行預金残高のグラフ（神奈川県 5.8%）</p> <p>P222 金融・保険業従事者数のグラフ（神奈川県 8.3%）</p> <p>P222 大学生・短期大学生数のグラフ（神奈川県 7.0%）</p> <p>P222 外国企業の所在地のグラフ（神奈川県 9.9%）</p> <p>P224 東京23区への通勤・通学者数の分布図（神奈川県 90万人）</p> <p>P224 主な都市の昼間の人口と夜間の人口のちがいのグラフ（横浜市 川崎市）</p> <p>P225 「横浜市、千葉市、さいたま市など、東京周辺の政令指定都市にも、東京の機能を分担するオフィス街などがつくられています。これらの都市は昼間の人口よりも夜間の人口のほうが多いため、東京の衛星都市としての性格が強くなっています。」</p> <p>P226 輸出入額の多い貿易港のグラフ（横浜港）</p> <p>P227 「関東地方の工業は、中部地方とならんで盛んです。大消費地に近いこと、大企業の本社や研究所に近いこと、成田国際空港や東京港・横浜港などの貿易港があることなどが理由です。」</p> <p>P228 高島平とユーカーが丘の位置の地図(神奈川県)</p> <p>P229 学習内容を活用して、表現しようの地図(神奈川県)</p> <p>P230 東日本大震災の震度分布と津波の高さの地図（神奈川県）</p> <p>P272 日本の県別資料 神奈川県の統計資料</p>

北方領土について取り上げている記載事項

<p>東 書</p>	<p>P69 地理にアクセス「広大なロシア連邦」北方領土をめぐる問題も残されています。</p> <p>P132 (地図)「日本の領域と排他的経済水域」(地図中に「北方領土」の名称と位置を記載)(写真)北端択捉島「散布山」</p> <p>P133 北海道の東にある北方領土は、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島から成り立っています。北方領土は、かつては多くの日本人が暮らしていた日本固有の領土です。しかし、第二次世界大戦の終結の直後にソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)が占領し、ソ連解体後もロシア連邦が引き続き不法に占拠しています。現在、日本とロシア連邦との間では、石油などの資源開発に関する話し合いも進んでいますが、北方領土の返還はいまだに実現されていません。</p> <p>P133 (地図)「日本の領土返還の歴史と北方領土」(地図中に「日本の固有の領土であり、ロシア連邦に返還を求めている区域」「1956年の日ソ共同宣言で、平和条約締結後に日本に返還することが決められたが、まだ実現されていない区域」と記載、「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)</p> <p>P134~135 地理にアクセス「日本列島を構成する島々 竹島・北方領土・尖閣諸島」北方領土は、地勢的には北海道の東方からカムチャッカ半島まで連なる島々の南部に位置しています。</p> <p>北方領土では、歯舞群島の西端の貝殻島が北海道東部の納沙布岬から4kmほどしかはなれていません。歯舞群島は平たんな島々からなり、その北東に続く色丹島も標高が低い島です。</p> <p>一方、北方領土の中でも国後島、択捉島は大きく、択捉島は本州など主要4島を除く日本の領土で最大の島です。国後島北部にある、北方領土最高峰の爺爺岳は標高が1772mあり、1973(昭和48)年に噴火して北海道東部にも火山灰が降りました。</p> <p>歯舞群島、色丹島、国後島周辺は広い大陸棚に囲まれており、からふとますやさけなどの、豊富な漁業資源にめぐまれています。これらの島々は、全体が草原や冷帯性の植物でおおわれており、年間を通して気温が低いため、標高の低い場所でも高山植物が見られます。北方領土には、このような貴重な自然が残されているため、しっかりと保護することが必要です。</p> <p>(脚注)北方領土は、日本が1951年のサンフランシスコ平和条約で領有権を放棄した「千島列島」にはふくまれません。</p> <p>(地図)「日本の領域と排他的経済水域」(地図中に「北方領土」の名称と位置も記載)</p> <p>(写真)「択捉島の散布山(北海道)」</p> <p>(地図)「北方領土周辺の地形」(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)</p> <p>(地図)「20万分の1地勢図(「標津」平成24年発行)(地図中に「歯舞群島」などの名称と位置も記載)</p> <p>P252 (地図)「北海道地方の自然環境」(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)</p> <p>P254 (地図)「北海道地方の人口」(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)</p> <p>P255 (地図)「北海道地方の産業」(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)</p>
------------	--

<p>教 出</p>	<p>P128 (地図)「日本の領土・領海と排他的経済水域」(地図中に「日本の北端」の名称と位置も記載) (写真)「択捉島(2012年)」</p> <p>P130 カムチャッカ半島まではロシア連邦の領土、択捉島の東にある国境線から北海道までは日本の領土ですが、2本の国境線の間にある白で示された島々は帰属が未定の地域を示しています。 北海道の東に位置する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島を北方領土とよびます。北方領土は、1945年の第二次世界大戦の終結後にソ連に占領されました。終戦時には北方領土にはおよそ17000人の人々が生活していましたが、日本人は強制退去させられました。ソ連の解体後も現在に至るまでロシア連邦によって不法に占拠されています。日本政府は、ロシア連邦政府に対して、日本固有の領土である北方領土の返還を求め続けていますが、いまだに実現されていません。一方で、1992年に始まった北方領土へのビザなし訪問など、民間での友好的な結びつきは続いています。 (写真)「領土問題などを話し合う「日ロ首脳会談」の様子(2013年 ロシア連邦・モスクワ)」 (地図)「北方領土とその周辺」(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載) (写真)「日本とロシアの中学生による意見交換会(2012年 色丹島)」 (年表)「北方領土問題に関する主なできごと」</p> <p>P238 東部には、阿寒湖の周辺や知床半島の火山の列が北方領土の国後島や択捉島まで続きます。</p> <p>P239 (地図)「北海道地方の地勢」(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)</p> <p>P249 (地図)「「ベツ」「ナイ」「川」の意味)がつく地名の分布」(地図中に「国後島」「択捉島」の名称と位置も記載)</p>
<p>帝 国</p>	<p>P124 (地図)「日本の東西南北の端と排他的経済水域の範囲」(地図中に日本の北端の位置を記載) (写真)「日本の北端」(択捉島の写真)</p> <p>P126 北海道の北東にある国後島・択捉島・色丹島・歯舞群島は、日本固有の領土で、北方領土とよばれています。日本はサンフランシスコ平和条約において、樺太(サハリン)の一部や千島列島の権利を放棄しましたが、北方領土の4島はその放棄地にふくまれていません。北方領土の近海は、水産資源が豊富な漁場で、多くの日本人がこれらの島に住んでいました。しかし、第二次世界大戦後にソビエト連邦に占領され、日本人は強制的に退去させられました。その後、現在までロシアが不法に占拠した状態となっています。1992年からは、相互理解と友好を深めて北方領土問題の解決に貢献することをめざした「ビザなし交流」が始まり、日本人のもと島民やその家族と現島民のロシア人との相互訪問が行われるようになりました。日本はロシアに対して北方領土すべての返還を求め続けていますが、いまだに実現されていません。 (写真)「北海道から見える北方領土の島々(北海道、根室市、2009年撮影)」 (地図)「北方領土周辺の国境の移り変わり」(1855年、1875年、1905年、1951年) (地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載) (写真)「かつて島に住んでいた日本人の墓に手を合わせるビザなし交流訪問団の人々(国後島、2011年撮影)」 (写真)「ビザなし交流でロシアから日本に来た中高生たち(北海道、根室市、2014年撮影)」</p> <p>P256 北海道の東部には、択捉島をはじめとする北方領土の島々があります。 (地図)「北海道地方の自然」(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)</p>

日 文	P101	「ロシアについて知っていること」日本固有の領土である北方領土を占領している。
	P114	(地図)「日本とその周辺の様子」(地図中に「日本の北端」の名称と位置を記載)
	P116	(地図)「日本の領域と排他的経済水域」(地図中に「国土の北端」の名称と位置も記載)
		(写真)「国土の北端(2007年、北海道)」(択捉島の写真)
	P118	北方領土は、択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島からなる日本固有の領土です。面積は合計約5000km ² もあり、千葉県とほぼ同じ広さです。日本は、18世紀ごろから本格的な開発を始め、1855年の日露通好条約で、日本の領土であることが確認されました。周辺の海域は、こんぶやかになどの水産資源が豊富で、かつては多くの日本人が漁業をしながら生活していました。しかし、1945年にソ連に占領され、ソ連解体後もロシアが不法に占拠しています。ソ連に占領されるたびに、当時住んでいた日本人はふるさとを追われ、現在、北方領土に日本人は住んでいません。日本は、北方領土の返還をロシアに強く要求していますが、いまだに実現していません。
		(地図)「北方領土・竹島・尖閣諸島の位置」(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)
		(地図)「北方領土付近の国境の変化」(1855年、1875年、1905年、第二次世界大戦後～現在)(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)
	P119	1951年のサンフランシスコ平和条約でも、北方領土と竹島が日本固有の領土であることが確認されています。日本は、この条約の内容などに基づいて、北方領土と竹島の領土問題を国際社会に訴え、平和的な解決をめざしています。現在、北方領土では、領土問題の解決に向けて、元島民を含む日本人と北方領土に住むロシア人が相互訪問するなど、交流を深めています。
	P119	(写真)「羅臼町から見た国後島(2013年)」 (写真)「「ビザなし交流」で国後島の一般家庭をおとずれ、ロシア人と交流する訪問団(2013年)」
	P134	(地図)「日本の主な山地・島」(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)
	P242	(地図)「北海道地方の地形」(地図中に「国後島」「択捉島」「色丹島」「歯舞群島」の名称と位置も記載)
P243	本州とは津軽海峡でへだてられ、北東側はオホーツク海に面しています。日本最北端の択捉島を含む北方領土などの島々があります。	

竹島について取り上げている記載事項、

尖閣諸島について取り上げている記載事項

	竹島について取り上げている記載事項	尖閣諸島について取り上げている記載事項
東 書	<p>P132 (地図)「日本の領域と排他的経済水域」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)</p> <p>P133 日本海上の竹島も日本固有の領土ですが、韓国が不法に占拠しています。日本はこれに抗議する一方で、国際機関を利用した解決を呼びかけるなど、外交的な努力を続けています。(写真)「竹島(島根県隠岐の島町 2012年)」</p> <p>P134 地理にアクセス「日本列島を構成する島々 竹島・北方領土・尖閣諸島」竹島は、隠岐諸島の北西およそ150kmにある。島根県隠岐の島町に属する島々で、日本海の中央の海中にある、巨大な台地のふちに位置しています。古い火山が基になっていますが、周囲が波に侵食されたことで、現在のような断崖に囲まれる地形になりました。竹島はいくつかの島から成り立っていますが、中心は標高168mの西島(男島)と標高97mの東島(女島)です。竹島周辺の海は、東シナ海から流れてくる暖流の対馬海流と、樺太(サハリン)から流れてくる寒流のリマン海流がぶつかる潮目の近くに位置しているため、かにやいか、あじといった回遊魚など、豊富な漁業資源にめぐまれています。(地図)「日本の領域と排他的経済水域」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)(写真)「竹島(島根県隠岐の島町 2012年)」(地図)「竹島周辺の地形」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)(地図)「竹島の2万5000分の1地形図(「西村」平成19年発行)」</p>	<p>P132 (地図)「日本の領域と排他的経済水域」(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)</p> <p>P133 東シナ海上の尖閣諸島は、日本が固有の領土として実効的な支配を続けています。中国がその領有権を主張していますが、広く国際社会からも日本の領土として認められています。(写真)「尖閣諸島(沖縄県石垣市 2012年)」</p> <p>P134～135 地理にアクセス「日本列島を構成する島々 竹島・北方領土・尖閣諸島」尖閣諸島は、石垣島の北およそ170kmにあり、沖縄県石垣市に属します。主な島は大小八つあり、最も大きい魚釣島は、東西およそ4km、南北およそ1.5kmで最高地点の標高は362mです。そのほかにも北小島、南小島、久場島、大正島などの島々があります。魚釣島はもともと楕円形の島であったものが、南側が波によって大きく侵食されたため、細長い形になったと考えられています。久場島は丸い形で、島の中心に円形の小さなくぼみや突出した部分があることから、火山と見られますが、噴火の記録は残っていません。尖閣諸島は、暖かい気候のため、陸上には亜熱帯性の植物が生えています。魚釣島などは、隆起して海面上に現れたさんご礁に囲まれています。尖閣諸島は、長崎県の五島列島と同じように、東シナ海の大陸棚の東のふち近くに位置します。国連関係機関の調査で、この周辺の大陸棚には石油資源がある可能性が指摘されています。尖閣諸島と八重山列島間の海底には、地中のマグマが海水に冷やされ、資源として使われる鉱物が固まった熱水鉱床があると考えられています。(地図)「日本の領域と排他的経済水域」(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)(地図)「尖閣諸島周辺の地形」(地図中に「尖閣諸島」などの名称と位置も記載)(写真)「尖閣諸島(沖縄県石垣市 2012年)」(地図)「魚釣島の5万分の1地形図(「魚釣島」平成15年発行)」「久場島の5万分の1地形図(「魚釣島」平成15年発行)」</p>

教 出	P128	(地図)「日本の領土・領海と排他的経済水域」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)	P128	(地図)「日本の領土・領海と排他的経済水域」(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)
	P131	竹島周辺では、江戸時代の初めから日本人が漁業を行ってきました。1905年に政府は、竹島を国際法に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議をかさねるとともに、国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません (地図)「竹島、尖閣諸島の位置」(地図中に「竹島」などの名称と位置も記載) (写真)「竹島(2012年 島根県隠岐の島町)」手前の東島には韓国が建設した施設があります。	P131	尖閣諸島は、1895年に沖縄県に編入された日本固有の領土です。第二次世界大戦後には、アメリカ合衆国の施政下に置かれていましたが、1971年に沖縄返還協定が結ばれ、翌年日本に復帰しました。尖閣諸島は、アメリカ合衆国の施政下にあった期間を除いて日本が領有し、有効に支配を続けてきました。しかし、1970年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめくり、中国が領有を主張し始めました。近年、中国船が尖閣諸島周辺の日本の領海や接続水域にたびたび侵入する事態が生じ、2012年、日本は島々の大半を国有化しました。 (地図)「竹島、尖閣諸島の位置」(地図中に「尖閣諸島」などの名称と位置も記載)
	P175	(地図)「中国・四国地方の地勢と各県」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)		(写真)「尖閣諸島(2012年 沖縄県石垣市)」
			P163	(地図)「九州地方の地勢と各県」(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)

<p>帝 国</p>	<p>P124 (地図)「日本の東西南北の端と排他的経済水域の範囲」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)</p> <p>P127 日本海にある竹島では、17世紀には日本人が漁を行っていました。1905年に明治政府が国際法に従って島根県に編入し、日本固有の領土として再確認されました。しかし1952年から、韓国が一方的に竹島を自国の領土と主張し、海洋警察隊をおいたり、灯台や埠頭などを建設したりして、不法に占拠しています。日本はこれに抗議し、国際司法裁判所での話し合いを3回も提案していますが、韓国が応じず現在にいたっています。</p> <p>(コラム)「漁業がさかんだった昔の竹島」</p> <p>竹島は、飲み水などが得にくく人が住むのには不向きですが、暖流の対馬海流と寒流のリマン海流がぶつかる海域に位置しているため、周辺の海は昔からさまざまな魚介類がとれる豊かな漁場でした。江戸時代の初めには、日本人によって竹島で漁業が行われ、明治30年代から昭和初期にかけては、島根県の隠岐の島民たちによって、あしか獺やあわび・わかめ漁がさかんに行われていました。現在は、竹島をめぐる日本と韓国の問題が未解決であるため、日本の漁船はほとんど漁ができない状態になっています。</p> <p>(写真)「竹島(島根県、隠岐の島町、2011年撮影)」</p> <p>(地図)「竹島の位置」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)</p> <p>(写真)「隠岐の島民たちが行っていた竹島での漁のようす(昭和初期撮影)」</p> <p>P184 (地図)「中国・四国地方の自然」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)</p> <p>P187 (地図)「中国・四国地方の高速道路網と高松市から3時間以内で移動できる範囲の変化」(地図中に「竹島」の名称を記載)</p>	<p>P124 日本の東西南北の端と排他的経済水域の範囲(地図)(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)</p> <p>P127 東シナ海にある尖閣諸島は、1895年に沖縄県に編入された日本固有の領土です。第二次世界大戦後はアメリカ軍の占領下に一時おかれましたが、1972年に沖縄県の一部として日本に復帰しました。尖閣諸島には、そもそも領有権の問題は存在しませんが、周辺の海域に原油などの資源が埋蔵されていることが注目されるようになった1970年代から、中国が一方的に領有権を主張するようになりました。中国の船が尖閣諸島周辺の日本の領海に不法に侵入してくることもたびたびあるため、日本は2012年に尖閣諸島の大半を国有化し、領土の保全に努めています。</p> <p>(写真)「尖閣諸島(沖縄県、石垣市、2010年撮影)」</p> <p>(写真)「日本の領海に侵入する中国の船(沖縄県、尖閣諸島沖、2012年撮影)」</p> <p>P170 (地図)「九州地方の自然」(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)</p>
------------	---	---

日 文	P114	(地図)「日本とその周辺の様子」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)	P114	(地図)「日本とその周辺の様子」(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)
	P116	(地図)「日本の領域と排他的経済水域」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)	P116	(地図)「日本の領域と排他的経済水域」(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)
	P118	竹島は、本州からおよそ200kmはなれた日本海にある、日本固有の領土です。竹島周辺は豊かな魚陽で、17世紀初めには日本人が漁業などに利用していました。1905年には、島根県に編入されました。ところが1952年から、韓国が、一方的に自国の領土であると主張して竹島を取りこみ、警備隊員を常駐させたり、施設をつくったりして、不法に占拠しています。日本は、韓国に対して何度も厳重に抗議しています	P117	日本には、沖ノ鳥島・南鳥島・尖閣諸島など、多くの離島があるため、排他的経済水域の面積は領土の面積の10倍以上にもなります。
	P118	(地図)「北方領土・竹島・尖閣諸島の位置」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)	P118	(地図)「北方領土・竹島・尖閣諸島の位置」(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)
	P119	1951年のサンフランシスコ平和条約でも、北方領土と竹島が日本固有の領土であることが確認されています。日本は、この条約の内容などに基づいて、北方領土と竹島の領土問題を国際社会に訴え、平和的な解決をめざしています。竹島については、この問題を国際司法裁判所で取り上げるように韓国に提案していますが、韓国は拒否しています。	P119	尖閣諸島は、石垣島からおよそ170kmはなれた東シナ海にあります。1895年に日本が領有を宣言して、沖縄県に編入しました。また、サンフランシスコ平和条約でも日本の領土とされ、このことに周辺の国々からの反対はありませんでした。その後も、日本固有の領土として管理されてきており、尖閣諸島には領土問題は存在していません。ところが、東シナ海に石油が埋蔵されている可能性が指摘された1970年代になって、中国などが尖閣諸島の領有権を主張するようになりました。最近では、中国の船が日本の領海にたびたび侵入しています。日本は、中国の動きに厳重に抗議し、領土の保全に取り組んでいます。
	P119	(写真)「竹島(2012年、島根県隠岐の島町)」東島には、韓国が建設した施設が写っています。 (写真)「竹島が日本固有の領土であることを示す地図の展示(2014年、島根県松江市)」	P119	(写真)「尖閣諸島(2013年、沖縄県石垣市)」 (写真)「尖閣諸島の日本の領海に侵入する中国の船(2013年、沖縄県石垣市)」
	P134	(地図)「日本の主な山地・魚」(地図中に「竹島」の名称と位置も記載)	P134	(地図)「日本の主な山地・魚」(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)
	P183	日本海には、隠岐諸島、竹島などの離島があります。	P170	(地図)「九州地方の県と地形」(地図中に「尖閣諸島」の名称と位置も記載)
			P171	尖閣諸島も九州地方に含まれます。

慰安婦または従軍慰安婦について取り上げている記載事項

全教科用図書において該当する記載事項なし

強制連行について取り上げている記載事項

東 書	該当する記載事項なし
教 出	P221 在日韓国・朝鮮人のなかには、日本が朝鮮半島を植民地として支配していた時代に移住したり、連れてこられたりした人たちやその子孫がいます。
帝 国	P201 (コラム)「朝鮮半島との結びつき」 近畿地方には、多くの在日韓国・朝鮮人が暮らしています。これらの人々の多くは、日本が朝鮮半島を植民地支配した時期に、朝鮮半島から職を求めて移住したり、労働者として連れてこられたりした人々とその子孫です。
日 文	該当する記載事項なし

拉致について取り上げている記載事項

全教科用図書において該当する記載事項なし

エネルギー問題について取り上げている記載事項、 震災について取り上げている記載事項

	エネルギー問題について取り上げている記載事項	震災について取り上げている記載事項
東 書	P56 「石油でうるおう西アジア」 P97 「都市と産業の発達」 P100 「食料とエネルギーの増産」 P160 「かたよる鉱産資源の分布」 P160 「広がる自然エネルギーの活用」 P161 「世界の産業分布」 P162 「資源輸入大国日本」 P162 「日本の電力をめぐる問題」 P163 「資源の活用と環境への配慮」 P170 「さまざまな発電方法の特徴と課題」 P180 「火山活動に由来する地形」 P183 「転換を求められた鉱工業」 P221 「原子力発電所のある地域」	P152 「さまざまな自然災害」 P153 「被災地へのさまざまな支援」 P153 「防災対策と防災意識」 P154 「震災と防災・減災への取り組み」 P205 「阪神・淡路大震災の教訓」 P221 「原子力発電所のある地域」 P241 「大震災のつめあと」 P245 「伝統の祭りに復興の願いを」 P248 「教訓を伝える」 P248 「教訓を継承する」 P248 「津波てんでんこ」 P250 「産業を活性化させる人の流れ - 仙台市を事例に考える」

教 出	<p>P54 「豊富な石油資源と経済発展」 P76 「自然の力を生かした発電」 P79 「EUとのつながり」 P81 「原子力発電と環境問題」 P96 「南アメリカの農業とその変化」 P154 「世界の資源・エネルギーの分布」 P154 「資源・エネルギーの消費と課題」 P155 「電力と発電方式」 P166 「火山が集中する九州地方」 P169 「循環型農業をめぐって」 P169 「バイオマスタウン」 P170 「北九州工業地域の発展と公害」 P171 「変わる九州地方の工業」 P241 「再生可能なエネルギーの先進地」</p>	<p>P139 「なぜ、日本では地震が多く起きるのか」 P146 「活断層と地震・津波」 P148 「災害時の対応」 P149 「災害への支援と復興」 P149 「釜石の津波防災教育の取り組み」 P155 「電力と発電方式」 P231 「水産業の発展」 P231 「ご当地グルメでまちをつなごう」 P235 「国際化と地域の変化」 P236 「震災を乗り越えて」</p>
帝 国	<p>P46 「原油の輸出による発展と新しい産業への進出」 P83 「他国との結びつき」 P86 「地球温暖化の影響と対策」 P97 「環境保全をめぐる新たな課題」 P154 「増加する資源の消費量」 P154 「資源の生産と分布」 P155 「世界各地で進む資源の開発」 P155 「再生可能エネルギーの活用」 P156 「資源を輸入にたよる日本」 P156 「生活を支える電力」 P157 「持続可能な社会の実現への取り組み」 P173 「自然の恵みをエネルギーに生かす取り組み」 P251 「工業の発展と環境へ配慮したエネルギーの活用」</p>	<p>P133 「どうして日本では地震が多いのだろうか？」 P144 「日本に多い地震と火山」 P145 「地震と津波」 P146 「防災への工夫」 P156 「生活を支える電力」 P199 「震災の経験を生かした神戸のまちづくり」 P227 「都市における地震被害に備える」 P243 「震災を後世に伝える桜ライン」 P247 「さかんな漁業と生活とのかかわり」 P252 「地震への備えと復興に向けた取り組み」</p>
日 文	<p>P42 「豊富な石油を活用した経済成長」 P55 「環境に優しい発電をめざして」 P75 「シェールガスが世界を変える？」 P85 「バイオ燃料の光と影」 P154 「なくなる資源」 P155 「日本のエネルギー消費と再生可能エネルギー」 P156 「原子力発電所の事故と再生可能エネルギー」 P171 「九州地方の地形と火山」 P173 「転換の進む工業」 P177 「バイオマス利用と循環型社会」 P180 「日本の環境首都めざして」</p>	<p>P88 「移民でつながるブラジルと日本」 P140 「地震や津波による災害」 P141 「地震・津波が起きるしくみ」 P145 「「釜石の奇跡」はなぜ起こったのか」 P146 「東日本大震災からの復興をめざして」 P148 「せまりくる巨大地震」 P156 「原子力発電所の事故と再生可能エネルギー」 P233 「東日本大震災からの復興をめざす東北地方」 P233 「東北地方の復興を願う祭り」 P237 「世界におよんだ震災の影響」 P238 「原子力発電所の事故による深刻な影響」 P240 「過去からの伝承に学ぶ 震災を後世に伝えるために」</p>

4 構成・分量・装丁

		調査研究事項	東書	教出	帝国	日文
構成・分量・装丁	1 単元	世界の様々な地域 (割合：%)	46	44	44	45
		日本の様々な地域 (%)	54	56	56	55
	2	地図(分布図含む)の数	250	246	195	217
	3	グラフの数	144	132	164	132
	4	文献資料の数	0	0	1	0
	5	読み物資料の数	145	89	113	136
	6	略年表の数	2	2	0	2
	7	写真や絵の数	687	481	634	549
	8	図・表の数	106	50	80	67
	9	巻末の学習資料の数	2	2	2	2
	10	索引の項目数	797	580	816	662
	11	判型	A B	A B	A B	A B
	12	総ページ数	295	279	280	281
平成27年度版総ページ数		263	279	280	305	
増減 (%)		+12	0	0	- 8	

5 表記・表現

調査研究項目	東書	教出	帝国	日文
文章表現や漢字・かなづかい・用語・記号・計量単位・図版などの使用	適	適	適	適
文字の大きさ・字間・行間・書体など	適	適	適	適
文章・図版などの割付け	適	適	適	適